

市民ボランティアの力で育てた

光のまちづくり10年の足跡を追懐



今や、海外のメディアからも注目される阿南の光のまちづくり。その始まりは、阿南青年会議所の皆さんによる手作りのイベントからでした。市民ボランティアの力で育てた輝かしき10年の足跡と今後の展望を、光のまちづくりをリードするお二人に語っていただきました。

10年をどう振り返りますか。

山本 あっという間でしたね。
板東 同感です。ああすればよかったなどと思うこともありましたが、継続できていることが本当にすばらしいと思います。

活動が始まったきっかけは。

山本 2002年12月、阿南青年会議所が牛岐城趾公園に3万個のLEDを使ったイベントをしたのが始まりです。それ以前にも、浜の浦公園で小規模な光のイベントをしていましたが…。2000年のカウントダウン花火を主体的に企画したのも青年会議所で、その頃から徐々に機運が高まっていた。その後、阿南商工会議所青年部も加わり光のイベントが企画されていったのです。

板東 そうだったんですね。私は2003年から参加させていたでいておりますが、当時の活気に満ちあふれた様子が今でも印象に残っています。「予算はないけど、やる気はある。何とか阿南市をよくしたい」と感じてね。

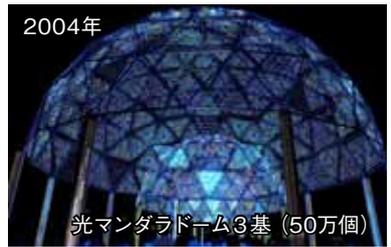
基板の製作に大変苦労されたと聞いていますか。

板東 LED球だけでは光らないわけですから。基板へのはんだ付け作業を3万個分したというのを



2005年

光マンダラクリスマス
(橘港中浦緑地公園)



2004年

光マンダラドーム3基 (50万個)



2003年

アナンミルクウエイ (30万個)



2002年

イルミネーション (3万個)

聞いて、これは本気だなと。それで私も参加する気持ちになりました。市の職員の方もボランティアで参加してくれましたし、阿南高専の学生も夜遅くまで手伝ってくれました。

山本 作っても、作っても、なかなか全体像が見えてこなくて、途中で、何度もうけそうになりましたが、それでも延べ1500人のボランティアを動員して「アナンミルクウエイ」を作り上げ、翌年には述べ2千人のボランティアの力で「光マンダラドーム」を完成させました。モニュメントが点灯された瞬間は本当に感動しましたね。2004年のイベントでは、10日間で24万7千人もの人々が訪れたんですよ。
板東 いやあ、あの時の感動は今でも心に残っていますよ。

「アナンミルクウエイ」や「光マンダラドーム」のデザインは、何をモチーフに。

板東 「神戸ルミナリエ」がヒントになっています。本来、街並みの背景を演出するイルミネーションが主役になれることを全国に知らしめました。ルミナリエの光は豆球で、ろうそくのように温かみのある黄色でした。それに対してLEDの光は、青や白、緑色といっ



た鮮やかで鋭い光です。まさに星
です。それなら、つるせば銀河系
のような世界が楽しめるのではな
いかとデザインしたのが「アナン
ミルキーウエイ」です。当時、ル
ミニナリエは25万個の電球が使わ
れていましたが、「アナンミルキー
ウエイ」では30万個が、「光マン
ダラドーム」では全部で50万個も
のLED球が使用されました。

山本 日亜化学工業様がLED球
を提供してくれたことで、世界で
阿南だけしかないドキドキする光
の世界をつくることができました。確
信めいたものを感じました。個人
的な意見になりますが、板東先生
のデザイン力にはこだわりました
ね。

板東 いやあ、そう言われると…。
それと「光マンダラドーム」です
が、以前からドーム型のものをデ
ザインしていたのですが、ポラン
ティアの方の目に留まって製作す
ることになりました。「神戸ルミ
ナリエ」がイタリアからやって来
た幻想的な光の芸術であるのに対
し、ドームの中にいると心が癒や
される曼陀羅のような効果が得ら
れるのではないかと「光マンダラ
ドーム」と命名しました。オブジェ
用の基板が開発されたことや、行
政、民間企業の支援も後押しとな
りましたが、やっぱりポランティ
アの力はすごかった。一から手作
りというのはほかに類を見ない傑
作ではないかと思っています。

い反響があつて、逆にこちらが
びっくりしました。「特別な時で
ないと見れない」というのが感想
でした。私たちが見慣れた風景も、
県外の人には新鮮で魅力あるもの
に映るのだと、あらためて気づか
されました。

板東 そうそう、私たちが気づい
ていないだけかもしれません。県
外の人の評価は、私たちの想像以
上に高いようです。

板東 さきほど、私のデザイン力
への期待という話が出ましたが、
私一人ではやはり限界がありま
す。そんななか、造形作家の二名
良日さんが阿南市特産の竹と融合
させた新しい光の世界をつくり出
してくれました。光マンダラド
ムのような派手さはありません
が、自然の香りや手作りの温もり
を感じましたね。光のまちづくり
の将来を考える時、派手さや規模
だけを追求するのではなく、原点
に立ち返って市民参加型の活動に
シフトしていくのが今の時代に即
しているのではないかと思いま
す。そういう意味では、10年とい
う節目は新たなスタートでもあり
ますね。

山本 そうですね。二名さんは、
「手作りでもこんな素晴らしいも
のができる」という、いいお手本
を見せてくれました。私は、光の
まちづくりには2つの楽しみ方が
あると思っています。一つは、今
年はどんな光のイベントを楽しま
せてくれるのだろうかという期
待。もう一つは、誰もが参加でき
る魅力ある企画づくりです。今夏
の「等身大竹人形」づくりでは、
阿南市竹人形伝承会の皆さんにも
協力していただきました。小さな
物でも多くの方がかかわってくれ

「認定されましたが、あれは誰の
発案だったんですか。」
板東 それは山本さんでしょう。
山本 あれは、恋人の聖地に認定
される1年くらい前のことだった
と思います。福島県須賀川市にあ
る「翠ヶ丘公園」で、結婚式やプ
ロポーズといった企画でまちの活
性を図っているということを知
り、調べてみたんです。その時に
出会った言葉が「恋人の聖地」で
した。幼い頃からの遊び場だった
牛岐城趾公園は、カップルがよく
来る場所でもありました。その時
はまだキラキラドームはできてい
ませんでしたが、恋人の聖地とい
うレリーフがあることで、それに
ちなんだイベントができないかと
夢を膨らませたんです。ただ、私
がかかると商売が絡んでくるの
で、阿南青年会議所の皆さんがそ
の思いを酌んでくれていきます。今
年も恋人の聖地にちなんだクリス

「多くのポランティアの汗が染
み込んだ光のオブジェが、東京や
大阪、韓国などでも披露されまし
たね。」
山本 すべての始まりは、日経ト
レンディ2005年3月号で、阿
南の光のまちづくりが取り上げら
れたことによります。たまたま、
その記事を見た東京ドームの社員
から阿南商工会議所に電話があり
ました。「光マンダラドーム」が
クリスマスイベントの企画案に
ぴったりだったとか。時を同じく
して東京ビッグサイト（東京国際
展示場）で「光マンダラドーム」
を展示する機会があり、現地で直
接PRすることができました。話
はほとんど拍子に運び、それ以来、
8年間企画させていただいていま
す。

板東 もう8年になりますか。す
ごいですね。普通なら数年で飽き
られてしまいますからね。
山本 あれから2、3年のうちに
阿南の光のまちづくりが全国に広
がりました。偶然に偶然が重なり
阿南の光のまちづくりがここまで
広がったことに、不思議な縁を感
じています。その後も、関西空港
や生駒山上遊園地などにも展示し
ましたし、東京ドームのつながり
で韓国にも…。

板東 ラクア（東京ドームに併
設されたスパリゾート）の年間入
場者数は何人でしたか。
山本 年間1200万人くらい。
マスイベントが企画されています。
——これからの阿南の光のまちづ
くりをどう描いていますか。

板東 さきほど、私のデザイン力
への期待という話が出ましたが、
私一人ではやはり限界がありま
す。そんななか、造形作家の二名
良日さんが阿南市特産の竹と融合
させた新しい光の世界をつくり出
してくれました。光マンダラド
ムのような派手さはありません
が、自然の香りや手作りの温もり
を感じましたね。光のまちづくり
の将来を考える時、派手さや規模
だけを追求するのではなく、原点
に立ち返って市民参加型の活動に
シフトしていくのが今の時代に即
しているのではないかと思いま
す。そういう意味では、10年とい
う節目は新たなスタートでもあり
ますね。

板東 少なくともこれだけの人々
が毎年、阿南の光（LED）を目
にしているわけですから、宣伝効
果は大きいですよ。

「キラキラドーム」や「阿南
光のまちステーションプラザ」と
いった常設施設ができたことで、
活動の幅が広がったのでは。」
板東 光のまちづくりも地に着い
たという感がありました。大した
ことないと思う人もいるかもしれ
ませんが、これってすごいことな
んですよ。



Bando Takaki

板東 孝明さん

Profile
1957年生 徳島市在住
武蔵野美術大学教授
2003年から阿南光のまちづくり
活動に参加。光のモニュメントの
生みの親。現在、阿南光のまちづ
くり協議会顧問を務める。

“ANAN Luminous Town Project 2012 X'mas”

LEDの幻想的な光のなかで「愛」を…

日時 12月23日(祝)～25日(火) 18:00～22:00
場所 牛岐城趾公園・光のまちステーションプラザほか
問い合わせは 阿南光のまちづくり実行委員会（阿南商工会議所内）
☎22-2301・FAX23-5717）へ



山本 史夫さん

Profile
1962年生 富岡町在住
阿南青年会議所や阿南商工会議所
青年部活動を通じて地域活性化に
精力的に取り組んでいる。2008
年から阿南光のまちづくり実行
委員会委員長を務める。



Yamamoto Fumio